

国外では、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化など厳しい複雑な渦中にあります。力による現状変更の暴挙は、国際秩序を根底から揺るがすだけでなく、エネルギー価格の高騰や物価高という形で、市民の日常生活に影響を及ぼしています。一方、国内においては、人口減少や少子高齢化を避けることができない流れの中にあり、地域の担い手不足やコミュニティの維持困難といった形で地方自治体の存続を脅かすような状況に直面しています。本市は、持続可能な行政運営をめざし、このような国内外の諸課題に対して真摯に向き合い、万全の対応をしていく所存です。

こうしたなか、国は令和8年度を「デフレ脱却」に向けた重要な年と位置づけています。高市政権が掲げる経済対策は、責任ある積極財政のもと、物価高騰から家計を守るため、即効性のある負担軽減策を展開すること、将来の成長と安全を確保する分野へ投資すること、防衛力と外交力を強化することを推進しています。

大阪府は、大阪・関西万博の成果を土台に、さらなる経済成長をめざす年と位置づけています。物価高や人口減少という厳しい情勢の中にあっても、副首都としての機能を強化し、日本の成長を牽引し続けるとしています。

本市の財政状況は、引き続き黒字決算を堅持していますが、地方債残高も依然として多く、財政が硬直化している状況は変わっていません。今後も高水準の公債費負担が続くなか、社会情勢変化の影響による不確定な要素も多いため、さらなる財政の硬直化を招くことが予想されます。しかし、こうした状況下においても、社会経済情勢の変化に対応し、多様化する市民ニーズを的確に捉え、課題解決に向け機動的に取り組みます。

昨年10月に閉幕した大阪・関西万博は、多くの困難を乗り越えながらも、経済・技術・社会の各側面で確かな成果を残しました。期間中には、国内外の多くの旅行者が訪問し、その経済効果は非常に大きなものとなりました。本市では、りんくうタウンエリアを中心に各種イベントを開催し、多くの来場者で賑わいました。世界の「玄

施政に関する基本方針

令和8年度 今年度の主な取組

施政方針は抜粋したものです。全文はホームページ（ID:7673）をご覧ください。

すこやかで、ひとがつながり支え合うまちづくり

【地域福祉】

●地域共生社会の実現をめざし、あらゆる世代や対象に対応する包括的な相談支援体制の充実に努めるとともに、「第4次地域福祉計画」の策定に取り組みます。関係機関との連携を深め、分野を越えた複合的な課題解決に向けた支援体制を構築します。

●10月30日・31日には、「第8回地域共生社会推進全国サミットinいずみさの」を開催し、全国からの参加者とともに地域共生社会への理解を深めます。

【高齢者福祉】

●在宅医療と介護の連携や認知症基本法に基づいた認知症施策をはじめ、市民のニーズを把握しながら、「第10期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画」の策定に努めます。

●楽しく介護予防に取り組むことができる「泉佐野元気塾」は、各地域で使用年数が長くなった機器の更新を行うとともに、設置可能台数を増やし、開催箇所の拡充を進めるなど、介護予防事業のさらなる充実に努め、高齢者が健康で元気に暮らすことができる施策を推進します。

●地域ポイント「さのぼ」付与による介護人材への支援を引き続き実施します。

【障害者福祉】

●障害のある人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、「第5次障害者計画・第8期障害福祉計画及び第4期障害児福祉計画」の策定に取り組み、相談支援体制の充実、就労支援体制の充実、入院・入所者の地域移行をはじめとした障害者施策の推進に努めます。

【健康・医療】

●「健康都市宣言」のもと、「すべての市民が健康なまちいずみさの」をめざし、市民一人ひとりが主役となり、さらなる健康寿命の延伸を図るため、「第3次健康増進計画・食育推進計画」に沿って取り組み、本市が支部長を務める健康都市連合日本支部の加盟都市との情報交換を通じて健康を支える環境づくりを進め、新たに市民を対象とした体験型連続市民講座である「健康都市大学」を立ち上げるなど、健康知識や運動習慣の獲得をめざす取組を深化させます。

●デジタル化した健康マイレージ事業「さのぼっ歩」は、健康づくり活動を促すとともに、地域ポイント「さのぼ」と連動し、健（検）診受診率の向上と地域経済の活性化を図ります。

●地域の中核病院であり、災害拠点病院でもあるりんくう総合医療センターとともに、将来にわたり良質かつ適切な医療を安定的に受けられる医療提供体制の構築に向けて取り組みます。

施政に関する基本方針で表明した主な取組は4〜7ページで紹介しています。



令和8年度 施政に関する基本方針
「世界に羽ばたく国際都市 泉佐野」
～ひとを支え ひとを創り 賑わいを創る～

千代松市長は3月2日の定例会議で、令和8年度の施政に関する基本方針を表明しました。

問合せ 政策推進課

関口である関西国際空港の対岸にあることから、万博の成果やレガシーを直接的に、かつ長期的な経済成長へと転換できるポテンシャルを秘めています。大阪・関西万博のレガシーとして、ハード面では、シグネチャーパビリオンの一つであり、映画監督の河瀬直美氏がプロデュースした「いのちのあかし」館などの本市への移設と活用を進め、ソフト面では、万博期間にあわせて開催した本市独自のイベントのレガシーとして「りんくうEXPO2026」を開催し、今後の持続的な成長・発展へと繋げていきます。

ひとを豊かに育むまちづくり

【子ども・子育て】

- 国の「こども未来戦略」を指針として、「第2期いずみさのこども未来総合計画」に基づき、「子育て日本一のまち泉佐野」をめざします。
- 「泉佐野市こども基本条例」の普及・啓発を図り、こどもの権利が尊重され、最善の利益が優先され、適切な養育環境が保障されるように必要な施策の充実に努めます。
- 市独自施策である就学前施設の給食費、第2子以降の保育料、保育施設における紙おむつの無償化を継続し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。
- 予期せぬ妊娠などで悩む妊産婦を対象に、出産・生活相談の支援、必要に応じて居場所提供を行う妊産婦等生活援助事業、助産師等による妊産婦オンライン相談事業を引き続き実施し、誰もが安心して出産・子育てができる環境整備に努めます。
- 最後の砦として赤ちゃんを受け入れ、子どもの命を守る「(仮称)赤ちゃんのゆりかご」と匿名での出産を受け入れる「内密出産」は、地方独立行政法人りんくう総合医療センターや関係機関と調整しながら、導入に向けて具体的に進めます。また、「生まれてきた、かけがえのない、大切な命を守るまち」として地域の機運醸成を図ります。

【学校教育】

- 学力向上に向けAI型デジタルドリルを全小学校に導入し、個別最適な学びを支援します。
- 市独自施策の少人数学級の編成として、「小中学校における支援学級在籍者を含めた通常学級学習者40人以上となる学級」に対し、きめ細かな指導充実のために市費講師を配置するとともに、「中学校2・3年生35人学級編成」に向けても、必要な講師を市費により配置します。また、「小中学校における心身の健康への適切できめ細か

な対応」のため、児童生徒数が一定数を超える学校に養護助教諭を市費により配置し、子どもたちがより安全で安心して学校生活を送ることができる環境を整えます。

- 国際的な人材を育成するため、ベトナム社会主義共和国ザライ省との交流事業を継続し、新たに中国・重慶市武隆区との交流を実施し、さらに、特認校の活性化のため韓国大邱広域市寿城区への修学旅行を実施します。
- 大学生への給付型奨学金を新設するとともに、塾代等助成事業の拡充、小学校に入学する児童がいる世帯への新入学準備金（ランドセル等助成）の給付、学校における保護者からの徴収金のうち学級運営にかかる費用の交付を通じて、教育機会の確保、保護者負担の軽減に努めます。
- 小学校の学校給食は、食育指導の推進や質の高い安全・安心な給食の提供を目的に、自校方式と親子方式により、給食調理室の整備を実施します。

【生涯学習・スポーツ】

- 中央図書館と日根野公民館図書室に自習が行えるスペースを増設し、より利便性の高い市民の学習・読書環境の提供に努めます。
- 日本将棋連盟と締結した「将棋文化の振興及び継承に係る連携協力に関する協定」に基づき、児童生徒の非認知能力向上を目的とした、小・中学校での将棋の出前授業を開催します。6月には、つばさ通り商店街の空き店舗を「さの将棋まちば」として開設し、誰でも対局が楽しめる場として提供します。昨年の名人戦に引き続きタイトル戦の開催をめざし、将棋の関連イベントや泉佐野市のPR活動にも努めます。
- 老朽化している設備の更新など体育施設の環境を整備するとともに、各種スポーツ団体と協力してスポーツ人口の増加を図ります。

快適で住みやすいまちづくり

【道路・交通】

- 泉佐野土丸線は、引き続き用地買収を進め、工事可能な区間は地下埋設物の布設および道路整備を行います。
- 笠松末広線は、用地境界の確定を進め、用地買収の交渉に努めます。
- 府道新家田尻線の大正大橋架替および歩道整備は、早期完了をめざして事業を推進します。
- 新たな地域振興、交通基盤の向上のため、道の駅の設置を検討します。
- コミュニティバスは、市内3コース、田尻町との連携コースに加え、新たなコースの運行について検討します。

【公園・緑地】

- 幅広い世代が安全・安心して利用できるように、公園・緑地の適切な維持管理に努め、施設の改修や修繕、公園の再整備を進めます。
- 日根野小学校区に、ボール遊びが可能な公園の整備を着手し、末広公園には、暑熱対策を兼ねた水遊びのできるミスト設備を設置します。
- 泉佐野南部公園を拠点とし、4月1日から本市が管理する泉佐野丘陵緑地や大井関公園を結ぶ樫井川沿いの河川管理道路を利用したサイクリングロードの整備、良好な河川空間を形成するため、河川内の樹木伐採、土砂の撤去を行うなど「樫井川かわまちづくり計画」に基づき事業を推進します。

【上下水道】

- 「安全」「持続」「強靱」を基本理念とし、安全で良質な水を安定して供給することを最優先に事業運営を進めます。
- 快適で衛生的な生活環境の確保と浸水被害の軽減を目的として、下水道整備事業を進めます。

- 上下水道料金の確認や各種手続きができるスマートフォンアプリを導入し、利用者の利便性向上を図ります。

- 物価高騰対策として、令和9年3月までの家庭用水道基本料金全額を減額し、市民の生活を支援します。

【住宅】

- 本市への移住・定住を促進するための取組として、新築住宅を購入・建設する場合に、地域ポイント「さのぼ」を付与する「住宅総合助成事業」のほか、「住宅リフォーム助成制度」「若年者世帯及び子育て世帯空き家活用定住支援事業補助制度」を引き続き実施します。
- 空家を利活用するために実施する耐震化工事、リフォーム工事、空家住宅の除却工事に対する助成のほか、特定空家をご寄附いただいたうえで本市において除却する制度、空家の所有者が不存在の場合に対する相続財産清算人制度の活用を引き続き実施し、地域に悪影響を及ぼす空家の解消に努めます。
- 耐震性が低く、バリアフリー化されていない下瓦屋団地住宅3棟の建替えを進めるとともに、若年者層の定住促進を図るため、佐野台地区で新たな市営住宅の整備に着手し、居住水準の向上を図り、安全・安心な生活ができる良好な住環境を整備します。

【市街地整備】

- JR東佐野駅のバリアフリー化に向けて、バリアフリー工事の詳細設計と施設整備工事の準備を進めます。
- 日根野駅西地区における交通状況と駅舎へのアクセス改善を目的に、ロータリー整備など公共施設を整備するため、都市計画施設として都市計画決定の手続きを進めます。

安全でひとと環境にやさしいまちづくり

【消防・防災】

- 消防団上之郷分団ポンプ車、大土分団の大木可搬ポンプ積載車の更新や必要な消防機材を整備し、災害に対する機能強化を進めるとともに、消防団の処遇改善を図ります。
- 災害時に避難行動要支援者が容易に避難できるよう、葵中央公園に休憩所を兼ねた地域の防災拠点を整備します。
- 南海トラフ地震などの大規模災害に備え、津波避難タワー設置に向けた基本構想を策定します。

【環境衛生・環境保全】

- 単独処理浄化槽、汲取り便槽から合併処理浄化槽への転換を対象に設置費用の一部を助成することに加え、法定検査の実施率向上を目的に、府下唯一の検査機関が実施する検査費用の補助を通じて市民負担の軽減を図るとともに、公共用水域の水質保全、公衆衛生の向上に努めます。
- 「泉佐野市建築物等における不良な生活環境の解消に関する条例」「泉佐野市空き地の雑草等の除去に関する条例」に基づき、良好な生活環境の確保に努めます。

- 太陽光発電、蓄電池の設置補助を継続し、ため池を活用した水上太陽光発電、木質バイオマスガス化発電により、一般財団法人泉佐野電力と連携しながら、2050年脱炭素社会の実現をめざします。

【廃棄物処理】

- 家庭から排出される廃食用油などの拠点回収を進めることにより、廃棄物の適正処理を推進してSAF（持続可能な航空燃料）の取組を進めます。
- 新ごみ処理施設は、建設に向けて引き続き取組、既存のごみ・し尿処理施設は、適正な維持管理を行います。

【生活安全】

- 消費者に対する啓発・情報発信の強化に加え、出前講座の実施により、消費者被害の防止、消費生活センターの認知度向上に努めます。
- 道路交通法の改正により4月1日から自転車の交通違反に交通反則通告制度（青切符）が導入されるため、市民に混乱や不安が生じないように新制度の周知を図るとともに、交通安全にかかる啓発を行います。
- 民泊については、地域住民の生活環境の低下を招かないよう適正な管理が可能な対策を検討します。

地域の強みを生かし、賑わいを創り出すまちづくり

【観光】

- 関西国際空港を利用する訪日外国人旅行者を本市へ着実に呼び込み、地域経済活性化に直結する観光施策の充実に努めます。
- 地域が持つ豊かな自然、歴史的街並み、固有の文化を映像資産として活用して、「泉佐野フィルムフェス」の開催やロケ地誘致、ロケツーリズムの推進に取り組みます。
- インバウンドに対する体験商品の販売や商品造成、食の多様性に対応したハラル、ビーガン、ベジタリアンが楽しめるメニュー開発などによる受入環境の整備を図ります。
- 歴史文化の保存活用は、地域計画に基づきながら、市内の貴重な文化財と3つの日本遺産、歴史のご縁のある自治体交流の施策を推進します。
- 樫井川流域を中心とした世界・日本農業遺産の申請を提出するとともに、世界かんがい施設遺産2例目となる「日根荘旧入山田村のかんがい用水施設群」の申請を通じて、農村景観の保存活用を進めます。

【国際化】

- 海外の友好提携13都市をはじめ、友好都市提携意向書を締結した中国の北京市大興区、臨沂市蘭陵県に加え、締結予定のインドネシアのプカシ市、アメリカ合衆国のハワイ州マウイ郡の4都市とは、友好都市提携に向けた交流を進めます。
- 市内の国際交流団体と協力し、国際交流イベントを開催するとともに、今年度より、市民が関西国際空港を利用し海外渡航した費用を助成します。
- 様々な生活上の相談事をスムーズに相談窓口へ繋ぐことができるよう関係機関と連携しながら、多言語や、や

さしい日本語での情報発信・提供に努めます。

【産業】

- 農業機械を貸出すことにより、新規就農者を支援し、離農、荒廃農地の拡大防止を図ります。
- 今年は「第45回全国豊かな海づくり大会」の開催年であり、海上歓迎・放流行事の開催地である本市として天皇皇后両陛下をお迎えし、本大会を契機に、より一層水産資源保護への関心・機運が高まるよう努めます。
- 滞在や周遊を促進するため、和菓子文化などを体験できる「甘味茶房さのまち庵」の活用や、つばさ通り商店街「夜市」の開催により、中心市街地の再生・活性化へと繋がります。
- 新たな産業用地を創出するため、泉佐野丘陵地区の未整備部分を新ごみ処理施設建設用地とあわせて産業集積用地化し、企業を誘致することで、地域経済の振興と、雇用や移住・定住の促進に努めます。

【雇用・労働】

- スキマ時間を活用した多様な求人と柔軟な働き方を求める方をマッチングする「いずみさのマッチボックス」を活用し、新たな労働力の掘り起こしや、企業、働き手、双方の課題解決に努め、多様な人材の活躍や誰もが柔軟に働ける地域社会の実現に努めます。
- 就職氷河期世代を含む中高年齢層やシニア層、ひとり親などを対象に、家に居ながら、働きながらも正規雇用やキャリアアップに向けた活動ができるLINEによる就労支援サービス「いずみさのシェルパス」を活用し、就業相談から職業紹介、就職、定着までを支援し、就労による経済的自立を促します。

市民と協働し、すべてのひとが輝けるまちづくり

【地域共助・地域コミュニティ】

- 地域コミュニティ活動の支援は、町会連合会と連携した加入勧奨をはじめ、町会・自治会の活動拠点となる会館の大規模改修などの整備事業への補助制度を継続します。また、地域コミュニティを維持するため、下半期から75歳以上の単身世帯の町会費を支援します。
- 地域全体の犯罪抑止力と安全性を高めるとともに、誰もが安心して暮らしやすい地域づくりを図るため住民生活課を設置し、外国人の方を含む住民の相談窓口一元化を進めます。

【人権・多文化共生】

- 「泉佐野市における部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす条例」を市民、事業者、各種関係団体へ周知するとともに、相談体制の充実やインターネット上の差別・人権侵害書込のモニタリングなど、人権施策の推進に一層努めます。
- 多文化共生社会の実現は、「国際都市宣言」に基づき、市民や事業者、各種関係団体と連携を図りながら国際交流活動を深めるとともに、国際交流課を設置し、文化や言語、宗教、生活習慣などの違いを理解し尊重するための取組を一層進めます。

総合計画の実現に向けて

【挑戦的な自治体経営】

- 泉佐野が「住みたいまち、住んでよかったまち」となるため、魅力ある地域資源を国内外に向けて発信し、本市のブランド力の向上を図ることにより、地域住民の愛着や誇りの醸成と市域への訪問者の拡大に努めます。
- 移住・定住促進を充実させるため、本市への移住・市内就業に対する従来の支援に加え、新たに奨学金返済支援を行うことで、市域への移住・定住の促進に努めます。
- 「外国人にやさしいまち」に向け、多言語ややさしい日本語での幅広い情報発信を充実させます。

【財政基盤の確立】

- 中期財政運営方針に基づき、持続可能な財政基盤を確立していくため、地方債の繰上償還などを実施しな

がら、基金を活用して新規発行債を抑制し地方債残高の減少に努めるとともに、遊休財産の積極的な売却、ふるさと応援寄附や企業版ふるさと納税、ネーミングライツなどの税外収入の確保に加え、新たな財源の創出に努めます。

- 「泉佐野市債権管理条例」に基づき、引き続き滞納処分の強化と徴収率の向上に努めるとともに、歳出面も「公共施設等総合管理計画」に基づく計画的な施設管理を行います。

【進行管理】

- 第5次総合計画の各施策において定めた重要業績評価指標（KPI）に基づく行政評価システムの活用により、機能的な市政運営に努めます。

令和8年度 当初予算 総額1,268億7,937万円

令和8年度当初予算の特徴

テーマに沿って一首

「紡がれし命と文化抱きつつ 閑空（そら）より世界へ 飛躍せんととき」 (*)

対前年度比99億3百3万円（8.5%）の増
ローカル×グローバルで飛躍をめざす推進型予算
問合先 行財政管理課

令和8年度の当初予算は、子育て・福祉・命を守る施策を強化するとともに、防災・防犯対策を一体的に拡充し、文化財などの地域資源を活かした交流・観光の展開に重点を置いた「ローカル×グローバル」で飛躍をめざす推進型予算として編成しました。

予算の特徴として、市税収入等が増加する一方、物価高対策をはじめとして、ハード・ソフト両面で大阪・関西万博のレガシーを活用した事業を実施するほか、賃金上昇の影響や扶助費の増加などにより、当初予算では5年連続で過去最大規模となったことから、各分野で基金活用による事業推進を図るものとなりました。投資的経費は、継続事業や防災等の緊急性の高い事業として、小学校給食自校方式の整備、泉佐野土丸線・新家田尻線の整備、泉佐野丘陵東地区土地区画の造成、児童発達支援センターの移転整備などを予算計上しました。

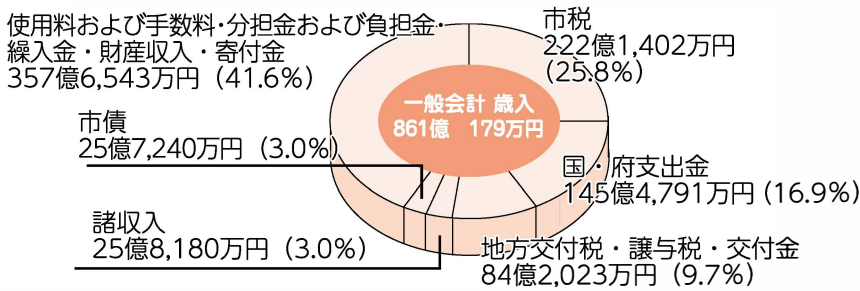
その他の主な政策的経費として、「生活支援等」では長引く物価高の影響を受ける店舗への支援を目的とした、地域ポイント「さのぼ」30%還元キャンペーンの実施、「赤ちゃんいのちのバトン」および内密出産の実施にあたり必要となる整備改修に係る地方独立行政法人りんくう総合医療センターへの負担金、「子育て・教育環境」では「個別最適な学びの実現」、「主体的な学びの促進と学習習慣の定着」、「学びの機会の保障」の実現を目的とした、小・中学校へのAIドリル導入、佐野中学校区への新たな地域子育て支援拠点の整備、「安全・生活基盤」では市内13小学校区に各1カ所、ボールパークを整備する計画のうち、日根野ボールパークの整備および中央・第一ボールパークの実施設計、人口流出の抑止や定住促進施策の一環として、若年層世帯向けの（仮称）市宮佐野台団地住宅の新規建設、「活力・賑わい」では関係人口の拡大を図るため、地域の歴史的資産・特産品・景観といった魅力ある資産を広く発信するシティプロモーションの推進、令和8年11月に本市と岸和田市で開催される第45回全国豊かな海づくり大会の開催負担金および市独自イベントを開催します。

また、財政健全化では、中期財政運営方針に基づき、引き続き行財政改革に取り組み、地方債残高の減少、ふるさと納税の推進などにより、財政基盤の安定化を図ります。

会計名	令和8年度(万円)	令和7年度(万円)	比較増減(万円)	比率(%)
一般会計	861億 179	778億 127	83億 52	110.7
国民健康保険事業特別会計	108億6,849	108億2,291	4,558	100.4
公共用地先行取得事業特別会計	8億4,020	4億6,070	3億7,950	182.4
介護保険事業特別会計	108億2,484	102億9,944	5億2,540	105.1
後期高齢者医療事業特別会計	20億 136	16億5,040	3億5,096	121.3
病院事業債管理特別会計	21億8,777	19億7,019	2億1,758	111.0
りんくう公園事業特別会計	2億6,596	2億4,610	1,986	108.1
水道事業会計	48億1,493	47億 259	1億1,234	102.4
下水道事業会計	89億7,403	90億2,274	△4,871	99.5
合計	1,268億7,937	1,169億7,634	99億 303	108.5

*本年度と前年度において、繰上償還および借換債の発行は行っていない。

一般会計歳入・歳出の内訳



(*) … 「紡がれし」には、歴史・絆・伝統を長い時間をかけて大切に繋ぎ合わせたことと「泉州タオル」を意味し、「赤ちゃんいのちのバトン」に象徴される「慈しみ」と文化財の「継承」を大切にする姿勢を「命と文化抱きつつ」に込め、関西国際空港を活かし、国際交流と観光の翼を広げるグローバルな展望を示して、今こそ、泉佐野市が大きく羽ばたく時であるという強い決意を詠んだもの

